

自分らしく輝ける社会へ力を合わせよう

比例予定候補・こむらさんの訴え

比例代表近畿ブロック予定候補の、こむら潤さんが10日、神戸市元町の大丸前で行った演説を紹介します。

◇

ジェンダー平等とは、単なる男女平等だけではなく、もっと広く性の多様性を認めていこうという動きです。生まれ持った体や人格は自分で選べません。それによって枠にはめられて人生の行く先を決められてしまうのはもうやめましょう。誰もが自分らしく、輝ける社会にしていきたいと思います。

私は、女性として生まれました。芸術大学を卒業し、すぐに結婚し、三人の子どもの母親になりました。並行して自分の得意を仕事にし、絵の講師やダンスのインストラクターを生業（なりわい）にしてきました。高校の美術の非常勤講師を2年ごとにやめてはまた再就職と繰り返したのは、出産、育児のタイミングがあったからです。

ドラマを見ていても、20代後半のヒロインが選択肢を迫られるのは、結婚か仕事かです。男性だって仕事も結婚もするが、人生のライフステージが大きく変わるのは、女性だからです。当たり前とされてきたが、これからの未来社会を考える時は、もっと発想を変えていく必要があります。

私の世代は就職氷河期で、学校の先生の募集は狭き門でもあり、芸術関係の仕事は一つでは食べていけません。何よりも自分自身の中にジェンダーの壁がありました。

夫の扶養家族の範囲を超えて仕事をしないように複数のパート・アルバイトで家計をやりくりしていました。育児と仕事に加え、PTAの会長を担ってきましたが、あるとき夫に「ボランティア活動よりもお金を稼ぐ仕事をしてほしい」と言われた時は正直ショックでした。PTA活動も責任感をもってやってきた。くやしくて、さらに空いている時間を埋めるようにアルバイトをして、6つの仕事をこなしていました。

今思えば、夫も一家を自分が支えなければならぬ。安定した収入で転職できる年齢は限りがあり、嫌な仕事、きつい仕事も家族のためにやめるわけにはいかないという重荷を夫は背負っていました。男性にも、ジェンダーは深刻な課題です。

こうしたジェンダーの壁にがんじがらめになっていた時、尼崎市議選への要請があり、子育て世代の女性の声を政治に届けたいと挑戦を決意し、市会議員になることができました。



初質問では性の多様性、LGBT問題をとり上げ、中学校給食実現や児童虐待問題などに取り組んできました。

日本社会では、戸籍の中心や世帯主は男性。しかしこのルールでは対処できない時代がやってきました。女性を世帯の中で父親や夫に従属し、養われる存在として位置付けるのは限界があるのです。

安倍政権による女性活躍の政策は、女性を家庭に縛り付けるルールはそのままだけに、ただ女性を安い労働力として利用しようとしたにすぎません。

家父長制度を改める、選択的夫婦別姓を認める、保育所や介護施設を増やし、働き方を女性の視点を入れて改革する、非正規雇用ではなく正規雇用を増やす、男性の産休育休制度を当たり前にしていくなど、できることはたくさんあります。

今年から、娘の学校は女子の制服にスラックスを選べるようになりました。私が住んでいる尼崎市はパートナーシップ宣誓制度ができて、22組の同性カップルが誕生している。コロナで生活が苦しい人を対象に、生理用ナプキンの無料支給も広がっています。

みんなで声をあげ、力をあわせれば世の中が変わっていきます。私たちよりも次の世代には、もっと自分らしく輝ける時代が来るように、力をあわせましょう。日本共産党はコロナ危機を乗り越えた先の、新しい日本の社会がジェンダー平等となるように頑張る政党です。総選挙での躍進へご支援よろしくお祈りします

21近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中・部内資料】

No. 20(2021.4.11)